

日本の学校体操の父

永井道明 ながい みちあき

(体操指導者)

「体育」は、今では学校教育の教科として、主要な科目の一つになっています。ところが、明治初期の水戸市下市小学校の体育といえは、鬼ごっこ、走りくらべ、竹馬、凧揚げ、ドッジボール、相撲、木登り、竹登り、乗馬、水泳などの自然体育であったと、永井道明は回想しています。これは、体育というよりは、子どもの遊びそのものです。中でも、道明は竹登りが得意で、後年、アメリカなどで登攀の競技に参加した際も、その経験が生きたといのです。

永井道明は、明治元年12月、水戸市下市蔵前に生まれました。道明の曾祖母おりんは藤田幽谷の妹にあたり、その子つまり道明の祖父政介は幽谷の甥であり、幽谷の子東湖とは、いとこ同士ということになります。また吉田松陰が水戸に滞在したのは、政介の宅でした。



永井道明
1868～1950年

(『遺稿永井道明自叙伝』より)



『遺稿永井道明自叙伝』
大空社
永井道明著

道明は幼い頃は虚弱でしたが、15歳の頃には人並み以上の体力になり、成人してからは兄弟姉妹10人の中で最も丈夫になり、体操の指導者となったのでした。それは食べ物への好みをしないうことや、毎日の中学校通学だけでなく、中学での体育の授業のおかげもあつたに違いありません。道明は明治15年茨城中学に入り、体育は星野久成の教えを受け、徒手体操から器具体操、器械体操、野球まで、さまざまな体育を学び、優秀な成績をあげています。

その後、茨城尋常師範学校本科から高等師範学校に進み、教育者の道を歩みます。明治29年には奈良県立畝傍中学校校長を、33年には兵庫県立姫路中学校校長を務め、体操校長として名を馳せました。

明治38年には、文部省から体育研究のために3年間の欧米留学を命じられ、アメリカ、イギリス、スウェーデン、デンマーク、ドイツの各国を訪れ、明治42年に帰国。その後は学校体操の統一に取組み、大正2年1月、「学校体操教授要目」(文部省訓令第1号)にその成果がまつたのでした。特に、明治維新後、迷走を続けていた柔道、剣道を要目に取り入れたのは道明の英断によるものでした。

(坂部 豪)

偕楽園公園のススメ

D51(デゴイチ)

千波湖畔のシンボリック的存在として、みんなに親しまれているデゴイチ。子どもたちにも大人気で、一度は乗ったことがあるという方も多いのではないのでしょうか。

昭和46年に設置され、長年千波湖を見続けてきたデゴイチですが、これほどまで保存状態がよいものは、全国でもあまり例がありません。これも、デゴイチを愛する市民団体「デゴイチを守る会」の皆さんの手によって、きちんと清掃、点検されているからです。平成23年には、全面を塗り替えるなど、装いも新たに変わりました。また、今年の5月3日には、「デゴイチ雄姿復活祭」を開催し、煙突から煙を出したり、汽笛音を鳴らしたりと、臨場感たっぷりの演出を行いました。

しばらく乗っていないという方、童心に戻って親子で一緒に乗ってみませんか。ひょっとしたら、「銀河鉄道の夜」のジョバンニやカンパネルラに会えるかも？



(上)復活祭では、煙突から煙を出すなど、往年の雄姿を披露
(下)一般参加の皆さんも、一緒になってデゴイチの清掃を行いました

